

公益財団法人 東京医科大学がん研究事業団 がん研究助成金研究報告書

平成 31年 5月 21日

公益財団法人

がん研究事業団理事長 殿

研究者 (職名)	氏名	所属施設					
	山口 隼 ④ (助教)	施設名	東京医科大学病院 消化器内科学	所在地	東京都新宿区 西新宿6-7-1	電話	03 (3342) 6111
研究課題	咽頭癌に対する内視鏡医と頭頸部外科医による新規hybrid治療法の開発と臨床応用への展開						
研究目的	従来からの外科手術に対し、本邦で開発された内視鏡治療は、早期癌における低侵襲治療として劇的な進歩をもたらした。私たちは内視鏡医主体のESD (endoscopic submucosal dissection;内視鏡的粘膜下層剥離術) と頭頸部外科医主体のELPS (endoscopic laryngo-pharyngeal surgery ; 内視鏡的咽喉頭手術) を融合させた新たなhybrid治療の開発を目指している。ELPSは咽頭表在癌に対して低侵襲かつ臓器温存が可能である治療である。一方でELPSの欠点として術野での器具の干渉、頸部食道や咽頭腹側への切除困難部位の存在が挙げられる。ESDの技術を加えることによりELPSの限界を補い更なる治療の発展を目指している。本研究では、他科とのコラボレーションの重要性に着目し、咽頭癌に対する低侵襲治療の発展を目的とする。						
研究方法	ELPSの問題点として術野での器具の干渉の問題が発症し、どうしても腫瘍に対してのアプローチが難しいCaseに直面する。また咽頭癌が頸部食道にまで進展した症例では、ELPSのみでは治療は困難である。内視鏡医が専門治療とする内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)と融合性を図った治療を行う。内視鏡と電気メス、鉗子類が接触してしまいアプローチが困難な部位に対して、直接内視鏡の鉗子口よりESD用ナイフを出し切除を行う方法にて極力器具の干渉が少ない状態が生み出すことでスムーズに腫瘍切除を行う。また術前に拡大内視鏡を使用し腫瘍の深達度、切除範囲を確認することによりさらに正確な治療を行える。咽喉頭腫瘍に対してHybrid治療を行なった症例の治療成績を検討する。						
研究成果	症例の内訳は男/女：63/4, 平均年齢：66.7±8.9歳, 病変部位：下咽頭/中咽頭/喉頭/残存咽頭；56/12/5/2, 肉眼型；0-I型/0-II型/2型類似病変；9/65/1, 放射線治療歴：有/無；13/62であった。T分類：pTis/pT1/pT2/pT3；26/25/21/3, 深達度：EP/SEP；26/49, 平均腫瘍径：19.9±10.9mm, 平均切除径：30.8±13.3, 平均切除時間：55.6±35.0分, 病理組織診断：SCC/dysplasia：70/5, 切除断端：水平断端；pHM0/pHM1/pHMx；39/16/20, 垂直断端；pVM0/pVM1；72/3, リンパ管侵襲：-/+；68/7, 静脈侵襲：-/+；68/7, 偶発症は重度喉頭浮腫/創部感染/嚥下障害/喉頭不全麻痺/誤嚥性肺炎：1/2/1/1/3で認めた。TypeB2-B3群はTypeB1群と比較し隆起型(平坦型：TypeB2-3/TypeB1；13/43, 隆起型：TypeB2-3/TypeB1；5/3, p=0.021), 上皮下層浸潤例(EP：TypeB2-3/TypeB1；3/22, SEP：TypeB2-3/TypeB1；15/24, p=0.022)が有意に多かった。						

<p>研 究 成 果</p>	<p>食道学会分類に準じたNBI拡大観察は表在性咽頭腫瘍の深達度の予測が概ね可能であった。ELPSにESD技術を融合したHybrid内視鏡手術は術野での器具干渉症例、頸部食道癌浸潤症例に対しても有効であった。咽頭腫瘍の診断、治療において内視鏡医と頭頸部外科医の連携をより一層重視するべきである。</p>
<p>今 後 の 予 定</p>	<p>現段階で、咽頭腫瘍に対する内視鏡医による術前の拡大内視鏡はある程度有用性を示されることがわかった。ただ、まだELPSとESDを組み合わせたHybrid手術について治療成績等は明らかになっていない。ELPSもしくはESDのみの手技と比較しELPSとESDを融合したHybrid治療がどのように治療成績が向上しているかを今後統計していく予定である。対象となっている件数はまだ75件程度であるが、今後さらに治療を重ねて、成績を検討していく。</p>

様式第3号

公益財団法人 東京医科大学がん研究事業団 がん研究助成金収支決算報告書

平成 31年 6月 3日

公益財団法人

がん研究事業団理事長 殿

研究者所属施設名

消化器内科学分野

氏 名

山口 隼 ㊞

収 支 決 算 書

(単位 円)

交付を受けた助成金額		金		2000000
費 目	明 細	単 価 及 金 額	計 額	
支 出 内 訳	設備、備品費	データ管理PC PC付属ソフト PCコネクター 解析用PC	303930 58320 1940 237160	601350
	消耗品費	ESD用トレーニングモデル ESDモデル固定器 バルサマスク 書籍、 DVD代 学会費 論文校正費 論文掲載費	610632 6830 129600 228744 125167 125518 174694	1401185
	計			2002350
過 △ 不足額				2350
備 考				

支 出 費 内 訳

区 分	金 額	根 拠
設備、備品費	データ管理パソコン 303930	データの管理にて必要
	PC付属ソフト 58320	ウイルスバスター等のデータ管理に必要
	パソコンコネクタ 1940	データファイルのエクспорт等に必要
	解析用パソコン 237160	データ解析用のため必要
消 耗 品 費	ESD用トレーニングモデル6106	ESD, ELPSの合同治療、トレーニングに必要
	ESDモデル固定器 68	トレーニングモデルを固定するために必要
	咽頭用バルサマスク 1296	咽頭を見やすくするためマウスピースとして必要
	書籍、DVD代 2287	ESD, ELPSについての書籍、DVDとして必要
	学会費 12516	成果の発表等の学会として必要
	論文校正費 12551	成果の発表等の英文校正費として必要
	論文投稿費 17469	論文投稿費として必要